

◆ 激励の言葉 1 ◆ 「二種類の人生」 創世記 1:1-5

KPCA 総会長 イギソン 牧師

神学院運営委員会

学 院 長 林東琥

学 生 支 援 康泰榮

教 務 堀江佳奈

人 材 育 成 洪永淳

神 学 特 講 蔡連培

図 書 管 理 廉元一

通 訳 嚴善一

事 務 朴セツピョル

高秉煜

有田喜絵

嚴政

JMTS 日本宣教神学院だより

発行人 林東琥

編集人 堀江佳奈

有田喜絵

嚴政

目次

激励の言葉	1
新入生紹介	3
入学式	4
卒業式	5
卒業生の挨拶	6
冬季神学特講	7
お知らせ・編集後記	8



創造論的な観点で見ると、世の中には二種類の人生があります。混沌と闇と無秩序の中で、地の属性で生きている人と、神の魂の運行の中で、天の属性で生きている人です。地で生きる人は、その属性から脱しなければ、彼の人生は常に混沌と闇が消えないでしょう。また、天の属性で生きる人は、彼の人生の中でどのような困難と苦難が訪れたとしても、その前途が明るくなるしかありません。今、私がどのような属性に従って生きるかによって人生の幸せと不幸が決定されます。それでは、天の属性に従って生きることは、どう生きることを言うのでしょうか？

1 つ目は、御言葉通りに生きることを意味します。本文 3 節で「神は言われた。『光あれ。』すると光があった。」この節で、「すると」という単語は、命令するやいなや直ちにそのまま行われたという意味です。神の命令と従順の間に、時間的にも空間的にも何のすきもためらいもないことを意味します。つまり、言葉の通り生きることは、神の言葉と我々の実践的な行動の間に、時間的に、空間的に隙間なく生きることです。神様の言葉と私たちの生活の間に隙間ができる、言葉が歪曲されることがあります。私の考えが神様の言葉を

隠してしまうことが生じます。サタンはいつもこの隙を狙って攻撃しています。言葉と私たちの従順の間を離そうとします。天の属性で生きていく最初の方法は、神の言葉と我々の人生の間に隙間が生じないようにすることです。

2 つ目、神様から頂いた場所を守ることを意味します。本文 4 節後半で「神は光と闇を分け」と言いました。神様は創造された被造物をそれぞれ彼らがいるべき所にいさせました。そして「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」と言いました。神様が万物を創る時、すべての万物に必ずいるべき場所があったので造りました。そこに、その被造物が必要だから、光も作り、闇も造りました。光が、神様がいさせた場所を離れたら、すでにその光は存在の意味を失い役に立たないものになります。学生は学校にいるとき、先生は講壇にいるとき、軍人は戦線にいるときが一番美しいです。そうです。聖徒たちも神様が計画して願うその場所にいる時が一番美しい聖徒になることができます。神様が私に下さった使命の場所がどこなのかを深く考え、その場を守る皆さんになることを願います。

3 つ目、神様の創造的な目的に従って生きることを意味します。本文 5 節で「光を昼と呼び」と言いました。光は暗い世を明るく照らすために神様が創りました。つまり、光にとって重要なことは、光という自分の存在より、その存在に神様が与えられた目的と機能がより重要だとい

うことです。光が光らしい存在になるためには、その目的と機能に最善を尽くす必要があります。人も同じです。自分のために生存することに一生懸命になるのではなく、私を創って下さった神の目的に集中する人にならなければなりません。それでは光の目的と機能にはどのようなものがあるでしょうか。暗闇を照らすこと、方向を示すこと、腐敗を防ぐこと、すべての生命体が実を結ぶよう助けることです。そうです。このような目的と機能は、ただ光だけに与えられたのではなく、神が創ったすべての被造物なら、すべてこのような目的と機能に合った人生を生きなければなりません。このような目的と機能を通じて暗い世の中で、天の影響を表しながら生きることが、天の属性に従って生きるという意味です。皆さんがいる場所で、天の属性に従って生きていくことで、皆さんがいるその場所が、神が見て美しい場所に変わっていくことを願います。

(祈り) 神様、世の暗さに捕らわれていた私たちを救って下さって、神様の子供にして下さり感謝します。これからは地と闇の属性に引かれて生きるのではなく、ただ天の属性でだけ生きることができるように助けてください。暗い世の中で闇を照らす者になり、天国を示す道るべになり、腐りゆく世を新しくする天の人にならせて下さい。何よりも私に下さった使命の場所を固く守る信仰の勇士になるようにして下さい。イエスの御名によってお祈りささげます。アーメン。

◆ 激励の言葉 2 ◆



愛する入学生、在学生の皆さん

日々同行していただき、主の同役者として良い業を成し遂げる主に感謝します。そして、インマヌエルとして来られた主の平和がJMTS神学院と日本宣教連合会の働きにあふれるよう、豊かになるように祈ります。その間、神学院のすべての働きをキリストの愛と喜びで献身し仕えてくださったすべての使役者と東京教会に感謝します。

主に熱く出会って28年が過ぎました。振り返る間もなく、時間が早く流れたと感じます。神様が誰であるかを知り、恵みのプレゼントである信仰で救いを頂きました。そして救いと共に聖霊様をくださった留学生活と働きで過ごした28年が恵みの中の恵みでした。栄光の中での栄光であることを告白します。主を知ること自体が私に不思議で、新鮮で、幸せと感謝があふれるようになりました。

そして当然、両親の救いが最初の祈りになりました。それはどこにも代わりのできない両親の愛ゆえであると思います。両親の救いが一番切な祈りになり、祈りの中で聖霊様がおっしゃいました。あなたの両親が一番早く救われることを願っているか、日本の魂、父なる神様の御霊のために祈れば、それが一番早く救われる道だ。そして主の僕となる召命をくださいました。使役者としての召命を日々神様の同行の中でいただき、主の働きに参加する栄光をくださいました。

新たに神学校に入学する兄弟、姉妹たちを歓迎し、祝福します。皆さんの学校であるJMTS神学院はこれから驚くべき神の国の使命を担うと信じます。終末の時代に神様の僕たちを訓

練し、準備する預言者学校として祝福すること信じます。

在學生と新たに入学する皆さんに主の心でお勧めしたいと思います。神様は驚くべき計画の中で私たちに日本宣教の使命と働きをくださいました。イスラエルを選び、預言者を立て、弟子を立てて神の御国の働きを示したように、私たちも導いてくださることを信じます。そのような信仰の人々がキリストの体である教会となります。そして神様はその教会となる皆さんにおっしゃいます。“耳のある者は聞く”“勝利する者になる”(黙示録 2:7)

単純に人間的な知恵、能力、熱心で可能にする成功ではなく、勝つものに、パラダイスを約束していただきます。熱心、能力、知恵で成す成功ではありません。そして勝つものは何でしょうか？それは愛です。勝つ者は神様を愛するという御言葉です。勝つことは霊的なことです。それが愛です。それは神様から流れてきます。創造主なる神様はすべてを愛で始められ、愛で完成されます。この愛で最後まで愛することが勝つことです。

わたしはとても恵まれた者です。その恵みは今も変わりません。しかし、最も大きい掟である、神様を心を尽くして愛しているかと聞かれると答えられませんでした。このくらいであれば勝つ者ではないかと思いました。隣人をよく助け、仕え、共に痛みを共有し、伝道もしているのに隣人を愛していると思いました。しかし、変わらずに続けて愛することができない所が私の中にあることに気づきました。さらに神様を心を尽くして愛しなさいという第一の掟に対する告白と確信がありませんでした。そのような私はもっと多くの伝道、献身、実りを結ぶことが愛であると考え、教えました。私自身も、その教えを受ける信徒もその告白ができないことを見ました。そうすればするほど自分の力で、自分の熱心と律法的な行為が焦点になりました。結果は成功であり失敗であり、どちらも愛の告白

につながりませんでした。結局愛することができず勝つ者になりませんでした。

そうする中、ある日主の贖いに対して深く黙想するようになりました。「コロサイ 1:22 今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。」良く知っている御言葉を聖霊様が照らしてくださいました。私に大きな変化をもたらす主の御声でした。神様を心を尽くして愛する信仰の使役者として変えてくださることでした。贖いは“覆う、取り消す”という kaphar の意味です。ギリシャ語では katallage と翻訳されます。“交換する、和解する”です。

神様と異邦の神との違いは私のすべてを知っているか、そうではないかで区別されます。特に未来のことは神様しかわかりません。神様は私たちの未来を唯一知っておられる全知なるお方です。その方が私たちの罪も咎も傷も全て知っておられます。しかし神様は私たちを見る時、すべての罪をイエス様で覆われた状態で見えおられたとおっしゃいました。贖いのイエス様が私のすべての罪を転嫁していただき、罪のない聖さを私に成し遂げてくださいました。

イエス様を主と告白し、信じる者をキリストの体として見ておられます。キリストの衣を着たということです。(ローマ 13:14) 私たちはイエス様にとどまり、その方の愛で完全に覆われている義人です。子供です。それが信仰の正体です。しかし私たちはどうでしょうか？罪を悔い改めて赦しをいただきながら、20回の悔い改めと赦しの中で、主は全て赦してくださいますが、このように反復する私をいかに嫌がっているかを思い出します。しかし主は19回の罪を覚えもしないで全部覆ってくださいます。一回犯した罪のように赦していただき、罪のないように宣言してくださいます。習慣的な罪でなければどん

な罪でも赦され、救いは取り消されることはありません。

私たちは主を信頼すると共にその方の中で私たちはどうい存在であるかを知るべきです。これを知ることが福音です。その愛に感激する時、神様を愛さざるを得なくなります。赦しは完全に忘れることです。私たちは赦しても多くの場合、感情には覚えていません。神様の赦しは人間のように不完全ではありません。神様の赦しは完全です。覚えることはありません(Iコリント 13:5)。民数記 23:21 のように赦すその瞬間忘れず。

ハレルヤ！私たちの神様はこのような方です。良い神様です。神様の愛は限りない愛です。信じて深く受け入れるべきです。これはとても大事です。勝つ者のポイントです。なぜなら、その時私は主を愛するようになります。熱心、献身、苦勞、伝道を通して告白することではありません。命を尽くして愛すると告白できる唯一の道は、命を尽くして十字架で死なれ、私の罪を全て覆われ、覚えもしない父なる神様の愛を知ることにあります。

わたしは神様を心から愛しますという告白ができるようになりました。心、意志、命を尽くして愛しますという告白ができるようになりました。その愛は私から出たことではありません。父なる神様から私に流れて私も命を尽くして主を愛しますと告白するようになりました。(ヨハネ 4:19) 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださいましたから

私たちにこの告白があるように祝福します。この愛を告白し、勝つ者になることを祝福します。揺るぎない力の油注ぎをしてくださることを信じます。いつでも愛の告白ができ、勝つ者の栄光をください、パラダイスの約束を成し遂げていただきます。神様は神学院と皆さんを通して、英才たちの連合体である日本宣教連合会を通して神様の偉大なる愛でこの地を覆うようにしてくださることを信じます。

KPCA 日本老会 老会長 ^{キム ミヨンス} 金明洙 牧師

◆25期 新入生紹介 1◆

ホンチャンピョ

洪讚杓（福岡アガペキリスト教会）

こんにちは。この度 JMTS25 期の新入生として入学しました洪チャンピョと申します。まず、僕が献身するきっかけを共に分かち合えるように導いて下さった神様に感謝します。

僕が宣教師になりたいのは神様にもらった愛を神様を知らない魂に知らせるためです。だから大学を卒業してすぐ韓国の神学校へ行く準備をしました。しかし、思うようには行けず神学校

には落ちてしまい、宣教師になること自体不可能であると決めつけました。その後、軍隊へ行き世間の友達の助言を通して除隊したらずぐに就活でもしようと決心したのです。それでも神様は僕が昔から宣教師になるのが夢だと言っていたことを忘れずに父を通して機会があることを見せてくれました。除隊してちょうど1か月後に JMTS の入学試験があることを知らされたのです。だから僕はこの機会を

与えてくださった神様に感謝し、自分ができる全てを尽くして試験準備をして入学するまでに至りました。

JMTS を通して神学について深く学び聖書をもっと知り自分の知らなかった神様をもっと知りたいです。また、宣教師として神様に人生を捧げた先輩方と同僚と共に励まし合い信仰を深めたいです。これからどうぞよろしくお願い致します。



キムデジン

金大新（新潟みのりキリスト教会）



今年の春から JMTS の 1 年生になる新潟みのりキリスト教会のキム・デジンと申します。

私は大学 1 年生の時から神様に会い、今はコスタで神様に「日本宣教のために献身します」と言う約束を守るために 2018 年末に渡航して、新潟大学で勉強しながら新潟みのりキリスト教会の働きを手伝っています。

幸いに、神様が渡航した時の決断を喜んで受け取ってくださり、約 2 年間の留学生活を通して魂の実があつて二人の兄弟が受洗を受けるようになりました。また、その魂たちが神様の愛により変化される過程を見ながら、福音を伝えて命を救うことが、他の何物よりも価値ある道であることを確信するようにな

り、神様の愛を知らない日本の魂に福音を伝えることに人生を捧げたいと思いました。それで、JMTS に入学することを決心したことであります。今は、イエス様のように神様の御言葉に従い、謙遜に主と共に働いてキャンパスを神様の福音を通して変化させる僕となりたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

はやしだ ゆり

林田優里（横浜キリスト教会）

今年から JMTS25 期生として入学致します、横浜キリスト教会の林田優里です。

私は大学 1 年生のときに横浜市立大学でゴスペルダンスサークル One Thing Crew に入り、少しずつ神様を知っていきながら、2015 年 11 月に武道館で行われたセレブレーション・オブ・ラブでイエス様と人格的に出会う恵みがありました。集会での

フランクリン・グラハム先生のメッセージの中で、いつも私の手を握って一緒に歩いてくださるイエス様に会いました。そして信仰生活をしていく中で、イエス様と主の中で家族となった兄弟・姉妹たちと一緒に福音を伝えていく働きをしていきたいという思いも与えられました。学生生活を終えて日本社会の中で働き

ながらも、何をするにも宣教が私の中心にいつもあるということ強く感じ、与えられた恵みに応じて生きることが主の御心であることを知りました。神様と近く歩むことを私の願いとして与えられ、キリストの平和の内に私を呼んでくださる主に感謝します。これからよろしくお願い致します。



◆25期 新入生紹介 2◆

イム ヨハン

林耀韓 (横浜キリスト教会)

こんにちは！この春から25期生として JMTS に入学する横浜キリスト教会の林耀韓です。献身の心を授けてくださった神様に感謝し、これからの歩みを祈りながら進んでいきたいと思っております。

私は宣教師の息子として育てられるようになり、親の影響で教会に導かれるようになりました。子供の頃から教会の日曜学校を通して神様を知り、聖書が語っている内容を学んで育ってきた私は、高校生までクリスチャンの学校で学び、世の中から自

分の信仰が守られている環境で育ちました。そのような環境が当たり前だった自分は、徐々に教会での奉仕や礼拝も形式的な姿勢へと無意識に変わって行き、最初は宣教師である親とは別に、自分自身のやりたい方法で自立していこうと決心していました。しかし、大学生になった頃に初めてクリスチャンがほとんどいない環境で過ごすようになってからは、ノンクリスチャンとの交わりの中で世俗的な話題に触れる事が多い場所にいることが馴染みづらくなり始め、改めてクリスチャンとしての自分自身の

価値観を見返すようになりました。私は自分から神様を探すようになり、徐々に私に信仰を与えてくださった神様に感謝するようになりました。神様が私にくださった能力と才能を神様の中で積極的に生かしていきたいというビジョンが与えられ、このように JMTS に導かれるようになりました。

自分が主に教会で任されている奉仕はギターでの賛美の奉仕や教会に通う中高生たちとの日々の御言葉を通した交わりをしています。私が教会に通う中

学生たちの先輩として、毎週日曜日に楽しく彼らたちと聖書を通した交わりの時間を楽しく仕えております。神学校に入ってから神様の導きにより忠実に歩むことができるよう努力していきたいです。



ロエイテツ

盧睿軼 (名古屋愛知キリスト教会)



こんにちは、この春に25期生として日本宣教神学院に入学しました名古屋愛知キリスト教会の盧睿軼と申します。

私は2009年に日本へ留学に来ました。その後、同じ寮のクラ

スメイトを通して、教会に導かれ、2010年9月11日に洗礼を受けました。

大学を卒業した後、私は就職して、現在も働きながら教会で礼拝を捧げ、奉仕をしております。社会人になった後、信仰の難しさや真実さ、そして、自分の信仰の弱さをよく体験しました。一時期、今まで一体何を信じているのか、本当の信仰は一体何ですか、毎日信仰生活をしているのか、習慣的宗教生活をしているのか、このままでいいのか、自分に質問しました。これから変わらなければならないと思う

のですが、なかなか変われませんでした。毎日悩みと苦労の中生活が続いた時、私は主から御言葉を頂きました。

(ルカ 5:4-5) (話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。)

シモンペトロの信仰に感動しました。「苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、主のお言葉ですから、網を降ろしてみましよう。」

私も主を信じて、降ろしてみましよう。やってみましようと思えました。これからの生活の中で主を信じ、御言葉と祈りを通して、もっと主に近付き、主を知り、自分の使命と主の計画をよく知り、真の信仰生活を体験する。そして、すべて主に委ね、どんなことであっても、主を確信し、主から離れず、人生最後の最後まで主と一緒に歩みたいのです。未熟で弱い自分は今から JMTS で努力し、頑張りたいたです。みなさん、お祈りと応援をよろしくお願いします。

◆入学式◆

2021年3月13日(土)10時から、オンライン(Zoom)にて、JMTS 第25回入学式が行われました。

今年は25期の新入生として、上記5名が入学しました。

恵みの中、無事に式が進行し、オンライン上でも、祝福の入学式となったことに感謝いたします。

新入生のこれからの献身の歩みのために祈り願っています。



◆卒業式◆

2021年2月1日、ヨハン東京キリスト教会教育館にて、また卒業生の各教会にて、JMTS第22回卒業式が行われました。今年は感染対策のため、Zoomを使用したライブ配信の形式で行いました。

卒業生として、21期 胡天译(ヨハン東京キリスト教会)、王麗媛(ヨハン東京キリスト教会)、22期 片山いずみ(大阪天満橋キリスト教会)、西潟侑

里(新潟みのりキリスト教会)の4名が卒業しました。

また、ウェスレアン・ホーリネス教団委員長・野田キリストめぐみ教会主任牧師の川崎豊牧師先生がメッセージしてくださいました。

恵みの中、無事に配信できたこと、また映像を通して多くの方々をご覧になってくださり、卒業生の新たな門出を祝福して下さったことに感謝いたします。



◆卒業生の挨拶 1◆

JMTS21期 ^{コテンヤク} 胡天译 (ヨハン東京キリスト教会)



この度は JMTS 日本宣教神学院を卒業させていただき、心より感謝いたします。神学院は表面上神学の勉強にすぎないように見えますが、根本的に、もっと大事なことは一人の神学生が神様の前でどれほど変えられたかのことです。神学院での勉強について、一人の先輩はこう例えました。「神学生にとって、

神学院の過程は麻酔をしない手術のようだ」と。今振り返ると、この例えがまさに適切だと思えます。

人間を変えられるのは神様の御言葉しかありません。我々はなぜ聖書を読み続けられないのか、その理由の一つは聖書が難しいこともあります。もう一つの原因は、聖書を読む時、自分が罪人であることが指摘されるからです。その指摘から逃れたい人間の本能が発動されるから、聖書を読むたくなくなります。一般信徒の場合、自ら一時的に逃れることができるかもしれませんが、神学生にはそれができません。何故なら神学という作業が常にあり、そこで神様と直面し

ないといけなからです。正直に言いますと、泣きながら神学院の課題を完成させることも何回もありました。毎回毎回「嫌だ」、「辛い」と思いましたが、今振り返ると、それはまるでヤコブが神様の使者と格闘したような、毎回毎回、神様の御前で祈って、神様に癒された大事な体験であると告白できます。

信仰生活とは人間が聖化する過程であり、さらに神様の御前に出て、自分の中の葛藤、自分の中の固執、自分の中の罪のすべてを御旨に照らされ、癒される過程でもあるでしょう。その葛藤、固執、罪が我々の心臓に埋められた茨のように、心臓が脈動するたびに我々を傷つけ

ますので、神様に取り除かれることが必要であります。しかし、それは辛い過程でもあります。何故ならその茨を取り除くため、心臓を切り裂く必要があるからです。神学院はまさにその過程でした。何度も何度も自分の心臓を神様に切り裂かれ、何度も何度も辛い経験をしないとイケないかもしれません、しかし、それは完全な癒しを頂くための必須条件であるからです。これこそ神様の真の愛であります。ゆえに、まるで麻酔しない手術を受けたように、我々は先にその癒しを体験したので、もっと証人となり、兄弟姉妹にその真の愛を適切に伝えるために使われないと思いません。

JMTS22期 ^{にしかた ゆり} 西潟侑里 (新潟みのりキリスト教会)



私を献身の道へ召し出し、JMTS で学ぶ機会を与え、卒業まで守り導いてくださった主に栄光を帰し、心から感謝致します。

ペテロが湖の上を歩いた出来事は、私の神学生生活の3年間そのものだと感じます。正直、

初めは自分が勇気を出して献身へと一歩踏み出したことを誇っていました。けれども、なかなか魂の裏を結べないこと、私を愛し育ててくださった朴春國先生の死、家族の死、を経験して、自分の力ではどうにもできないことが沢山あるんだと知りました。そして、私はそのような試練の時に、ただ神様に叫ぶことしかできませんでした。もし神様が呼んでくださらなかったのなら、水の上を歩くほどに難しい、この献身の道を歩むことなどできませんでした。主は日々御言葉を与えることによって、また神学校

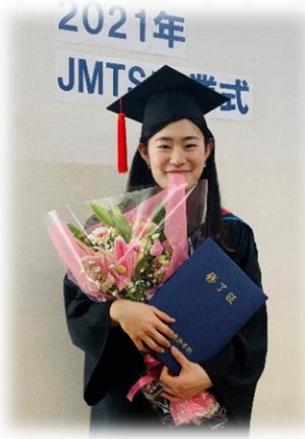
で主を深く知っていくことによって、次に踏み出す力を与え、信仰に依り頼めるように助けられました。神様が忍耐深く私たちを鍛え、慰め、愛してくださいのおかげで、自分には耐えられないような試練が襲った時にも、信仰に踏みとどまることができました。この JMTS での3年間の学びのおかげで、自分の感情に流されず、御言葉の真理にしっかりと留まることの大切さを学びました。

この3年間の学びの生活を支えてくださった全ての方に、改めて感謝申し上げます。遠くに

いるのに時々心配して連絡をくれ、私のために祈ってくれた JMTS の皆さんは、私にとって心の支えでした。JMTS の先生方には、主の御前で誠実に仕える、という僕のあるべき姿を学ばせていただきました。また、いつもそばで励まし愛してくださいました。今は亡き朴春國先生と金恩榮先生には、感謝をしてもし切れません。愛を仇で返すような私に、先生方は愛を注ぎ続けてくださいました。これからも金先生や教会の兄弟姉妹たちと心一つにして、私に残された使命を全うし、JMTS での学びを実践していきたいです。

◆卒業生の挨拶 2◆

かたやま JMTS22 期 片山いずみ (大阪天満橋キリスト教会)



今回卒業しました、大阪天満橋キリスト教会の片山いずみです。多くの先生方や兄弟姉妹たちに祈られ支えられ、卒業することが出来、本当に心から感謝致します。

3年間の学びの中で、1番心に残っているのは、年に2回ある神学特講での出来事でした。講義の中で、『神様の愛は浪費の愛だ。誰が神様より、愛のある人がいるのだろうか。』という言葉が胸に刺さりました。その時の私は、聖書勉強をしているノンクリスチャンの姉妹たちの状況が徐々に悪くなり、自分の力不足に落ち込んでいる時でした。次第に、神様は祈りを聞いて下さっていない気がして、祈るのも嫌になり、期待感の持てない毎日を過ごしていました。“なぜ神様はこの魂に感動を与えてくださらないのだろうか”“なぜ神様はこの姉妹に出会ってくださらないのだろうか”と、神様に対

して不平不満を抱いていました。

そんな私に『誰が神様より、愛のある人がいるのだろうか。』という言葉は、とても印象に残りました。その時、自分が応えて欲しい祈りばかりを気にして、それを与えてくださらない神様に対して不平不満を持ち、自分が救いの御業の結果を決める傲慢な姿があった事に気付かされました。そして、この苦しみは神様の苦しみであり、主も同じように苦しい思いで執り成しておられることに気が付きました。目に見えなくても、いつも主は働いて下さっていて、いつも共におられる事に気が付かされ、悔い改めと励ましがりました。そ

の後は、分かち合いの中で兄弟姉妹たちと祈り課題を分かち合い、祈りの恵みを共に感じられたことも感謝でした。

JMTSの訓練期間で、神様はこんな不信仰な私を諦めず、愛と恵みで助け導いてくださった恵みが多くありました。これから、神様はいつも共におられ、主の御心が一番の道であることを覚え、謙遜に神様に従う僕として生きていきたいです。一粒の麦が、地に落ちて死ななければ、多くの実を結ぶことが出来ないように、自分思いや考え、欲を捨てて、いつも主に従い、主の命が生きる祝福の管として、豊かに用いられる者になりたいです。

オウレイエン JMTS21 期 王麗媛 (ヨハン東京キリスト教会)



私を創造し、贖い、私を選び、献身の道に導いてくださった神様に感謝致します。

JMTSで勉強できること、4年間でたくさん神様を体験したこと、卒業ができたことは神様の恵みであることを告白致します。

4年間の神学校の中で最も美しく深い記憶は、神様が私と共におられ、私に力を与え、私の心を保ち、癒しをして下さったことです。

JMTS二年目の時、ある科目の試験があって、私は準備はしましたが、試験中に書けなかったのも、とても悲しくなりました。非常に悲しかったので、教会の1階のトイレに入って、よく勉強できず、試験も受けられず、無力で痛みで激しく泣きました。泣いて泣いて、とてもはっきりとした御言葉が私の頭に浮かんでいました。それは詩編121:2「わたしの助けは来る天地を造られた主のことから」の御言葉です。この御言葉を受け取った後、私はもっと激しく泣きました。神様ご自身が私を慰めてくださったことを実感したことで泣きました。神様は私の助けは天と地を創造した主から来ると言われました。それで、私は泣き止みました。悲しみの心は喜びと感謝、感動の心に変わられました。心が強められ、立ち上

がって、トイレの中から出ました。

このことを通して、私は深い悟りがありました。今の勉強も、これからの人生も、すべての面も神様は私を助けてくれる方です。天と地を創造された神様にとって不可能なことは何もありません。私がやるべきことは神様の助けを求め、どんな困難があっても、私を助ける神様に頼って、信じることです。

4年間の神学校のもう一つの非常に重要な思い出は、私の周りの人々からの励ましと助けです。

教会の先生達、執事達、JMTSメンバー達、兄弟姉妹の祈りを通して私の霊性などを守ってくれました。堀江先生との毎週の点検は私の信仰と人格をより成熟させました。サランパンの姉妹達の奉仕、調理せず

に食事をすることがよくできました。また、両親の支持と理解が私に多くの力を与えてくれました。そして、私を気遣い、私に仕える先生達、執事達、兄弟姉妹達がたくさんいました。在職している二つの会社も残業せず、授業時間の通りには出席することができました。

過去4年間、私と一緒に歩いてくれた神様とすべての隣人に感謝致します。コロナ時期の中で、素晴らしい卒業式を用意してくれたことも感謝致します。神学校のすべての先生、卒業式のために一生懸命準備したすべての先生、私への贈り物を準備してくれたすべての霊的な家族、在学生にも心から感謝致します。

JMTS神学校、すべての先生達、在学生達のために、これからも熱心に祈ります。

◆冬季神学特講◆



2021年冬季神学特講が、2月1日～5日まで、Zoomで行われました。

今回の神学特講には、韓国の合同神学大学院の金ジンス教授、李ナムギョ教授の二人をお招きし、「旧約総論」と「神学原理」の授業が行われました。

今年も全国から多くの先生方に参加していただき、部分参加を含め、学生、教職者、スタッフ合わせて30名が参加しました。

本神学院に来てくださり、正しい神学を教えてくださいました先生方、そして今回も運営と通訳、翻訳に奉仕して下さったスタッフの方々から感謝いたします。

◆冬季神学特講の恵み◆

まつのうきょう こ
JMTS24期 松能今日子 (富山ホサナキリスト教会)



2021年冬季神学特講の全ての日程が守られたことに感謝します。今回の神学特講では、神学原理を李ナムギョ教授が、旧約総論を金ジンス教授が導いてくださいました。

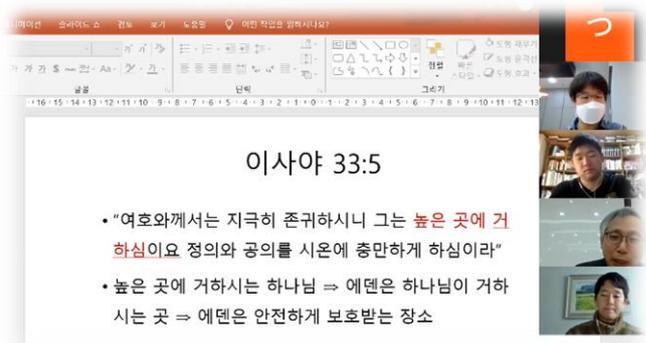
神学原理の講義では、神学の基礎を包括的に学ぶことができました。講義を通して、神学が取り扱うすべてのテーマの源泉が神様であることを確認し、神学を学ぶごとに神様の偉大さを知っていけることをとても嬉しく感じました。中でも、御言葉を受け取る人間に働く、内的認識原理についての学びに恵まれました。御言葉を差し出されても、その御言葉を認識するには聖霊様

の照らしが必要不可欠であるという内容を聞いて、信仰の始まりにおいて神様の働きかけによらない領域はないのだということ、改めて感じました。そして、聖書を理性的に判断しようとする人々に対しても、理性の限界を超える聖霊様の働きかけがあるようにと祈り続けたいと思いました。内的認識原理について、立場の違う様々な解釈を学ぶことで、聖霊様の働きかけの必要性をより深く確信することができて感謝します。

旧約総論の講義では、天地創造の7日目の「安息」を軸に、旧約聖書を学びました。安息をもって創造を完成された神様がこの世の統治者であり、その統治に従う時に神様の安息を享受するということを、旧約聖書を緻密に読み解きながら知ることができました。特に、出エジプト記のアマレク人との戦いについての学びが印象に残っています。アマレク人は、神様を畏れず、

統治に従わない全ての勢力を意味すると知りました。そして、アマレク人のような心が自分のうちに生まれるとき、神様の統治に完全に従順されたイエス様への信仰によって勝利できる、という内容に励まされました。主に信頼して杖を掲げたモーセのように、イエス様に信頼して十字架を掲げ、最善を尽くして前線に戦ったヨシュアのように、最善を尽くして、自分自身や世の中にあるアマレク人と戦いたいです。

最後になりましたが、講師の先生方をはじめ、この神学特講のために奉仕して下さった先生方、祈って下さった方々に感謝申し上げます。今回はZoomでの講義でしたが、他の神学生の方々や討論したり、講義以外の時間にも交わりの時間をもつなど、充実した5日間となりました。何よりも、この神学特講を恵みで満たして下さった主に感謝と栄光を捧げます。



◆JMTS サポート要請のお知らせ◆

JMTS 日本宣教神学院は主の恵みと導きの中、多くの祈りと支援により支えられてきました。これからも神学院のますますの発展と、より良い訓練・学習環境を整えていくため、どうぞ皆さまからの暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 郵便振替口座 : 00260-9-89632
- 口座名義 : 日本宣教神学院(ニホンセンキョウシンガクイン)
(※各教会／個人で一口 1000 円から支援可能)

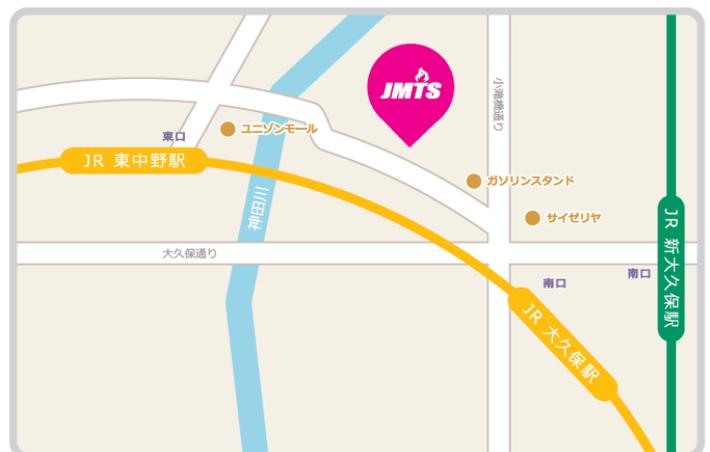
◆編集後記◆

皆様のご協力をいただき、第 6 号の神学院便りを発行することができました。

今回は、KPCA 総会長であるイギソン牧師先生、KPCA 日本老会の老会長である金明洙先生より激励の言葉をいただきました。神学院のために尽力して下さる先生方に心から感謝いたします。

また今年度は、5 名の新入生が与えられました。互いに協力し合い、学び合いながら主の中でよい連帯を築いていけますようにお祈りします。

本神学院は、11 名の運営委員会の先生方によって運営されています。学院長: 林東琥、学生支援: 康泰榮、教務: 堀江佳奈、人材育成: 洪永淳、神学特講: 蔡連培、図書管理: 廉元一、通訳: 厳善一、事務(卒業、入学関連含む): 朴セツビョル、高秉煜、有田喜絵、厳政。以上 11 名がそれぞれの奉仕において、瞬間瞬間、聖霊様の導きを受け、教会の頭となられ、我々の主人となられたイエス様が伴ってくださいますよう、お祈りいたします。



JR総武線「東中野駅」下車徒歩5分
JR総武線「大久保駅」下車徒歩10分
JR山手線「新大久保駅」下車徒歩15分

JMTS 日本宣教神学院
〒169-0074 東京都新宿区北新宿 4-29-8
TEL: 090-1152-0191 / 090-9142-9342
E-Mail: kana.horie@gmail.com